

海田町を笑顔いっぱいの町に

～認知症サポーターを広めよう～

私は、こども議員の海田西中学校の重松芹利奈です。私が海田町に提案したいことは、「認知症サポーター養成講座を小学生から中学生につなげる」ことです。

私は、海田町の高齢者がどういう状況なのか知るために、海田長役場長寿保健課に行きインタビューを行いました。そこで、次のような3つの問題点を伺いました。

1つ目は、高齢者の方が増えているとともに、認知症の方が増えていることです。現在、平成 29 年の高齢化率は 23.30%、これは 13 年前の、平成 16 年の高齢化率 14.48% と比べると、8.82% 上昇しています。そして、高齢化率はこれからも大幅に上昇し続けると予想されています。

2つ目は、高齢者の1人暮らし、高齢者だけの世帯が増えていることです。私は、家に1人でいると地域との関わりが少なくなるため、認知症になる確率が高くなるのではないかと考えました。

3つ目は、高齢者についての正しい理解を持っている人が少ないということです。そこで、「高齢者についての正しい理解と高齢者との関わり方や支援について、小中学生から知ってほしい。」と担当の方から伺いました。

また、現在海田町では、新しい取組が始まっています。その取組とは、町内の小学校で行われている「認知症サポーター養成講座」のことです。

そこで、私は「認知症サポーター養成講座」を平成 18 年度から小中学生を対象に行っている、福井県若狭町の役場の福祉課の方に電話でインタビューをしました。

若狭町では、町内にある小中学校 11 校中、8 校で実施し、中学校 1 年生を対象に「認知症サポーター養成講座」を行っているそうです。また、どこで講座を受講しても共通してオレンジリングを授与しているそうです。

次に、これまで認知症サポーター養成講座を行っての成果を伺いました。その成果とは周りの人が認知症の症状を知っているので、早期発見ができるということです。私は早期発見できることは、認知症の方にとっても、家族にとってもよいことだと思いました。

また、私は、今後の課題について、質問をしました。講座を受けた後、学んだことを生かせる場がない。実際に活動があまりできていないと、おっしゃっていました。

私は、海田町の小学校で始まった「認知症サポーター養成講座」を、義務教育の最終学年である、中学校3年生でも実施することを提案します。

講座の内容を小学校で学習したことから、さらに中学校で実践的なものにしていくことで、一貫した講座にしていけばよいと考えます。

海田町で現在実施している小学校高学年を対象とした「認知症サポーター養成講座」について、若狭町の担当の方から課題として伺った、「講座を受講しての「知識をいかす場がない」「講座の後の活動がない」ということに対して、今後、海田町ではどのような取組を行っていくのか考えを聞きたいです。